

遭難対策行動計画表

立教大学学生部作成「事故対策行動計画表」に従い、理岳会における詳細な行動計画について記述する。
尚、理学部山の会（現役会）に対する遭難対策については、大学学生部が設置する遭難対策本部の指揮の下、大学遭難対策本部に対して適切なアドバイスおよびサポート活動を行う。

（注）*1 の項目については大学遭難対策本部が主導する。

1 遭難査定会の設置

- 1.1 次の状況が発生した場合、遭難査定会（以下、査定会）を招集する。
 - 入山パーティーまたは大学学生部から事故の一報が届いた場合。
 - 現地自治体、山小屋、所轄警察、消防、その他のパーティーなどから会員の遭難を知らされたとき。
 - 最終下山予定日の前日18時を過ぎても下山連絡がない場合。
- 1.2 査定会のメンバーは理岳会幹事の中で、当日在京で連絡可能な者とする。
- 1.3 査定会の開催場所は、大学内、査定会メンバー宅、その他適切な場所とする。 状況により電話等の連絡で行う。
- 1.4 初期活動
 - 山行メンバーへの携帯電話連絡。
 - 利用予定山小屋への確認。
 - 留守宅への下山連絡の有無の確認。
- 1.5 査定会での協議内容
 - 下山連絡がない場合は、コース、メンバー、天候、装備などを再確認し遭難の可能性を慎重に検討する。
 - 状況の確認
 - ✓ 事故者氏名
 - ✓ 事故状況（いつ・どこで・どのような状況になったのか？）
 - ✓ 現状（何時何分現在、どこにいて・どのような容態なのか？）
 - ✓ 他のメンバーの状況（どこで・どのような状況か？）
 - 今後の方針
 - ✓ 遭難対策本部の設置の有無
 - ✓ 救援の有無
 - ✓ 大学学生部への連絡の有無
 - ✓ 理岳会会員への連絡の有無
 - ✓ 次の連絡時刻（パーティー、査定会メンバー、大学学生部）

2 遭難対策本部の設置

- 2.1 次の場合に遭難対策本部を設置する。
 - 査定会で本部の設置が決定された場合
 - 大学学生部内に対策本部が設置された場合
- 2.2 遭難対策本部メンバーは、査定会メンバーおよび査定会が召集する理岳会会員とする。
- 2.3 遭難対策本部の設置場所は、数台の電話とFAX、コピー機ならびにE-mailが利用できる場所が望ましい。（大学内に対策本部が設置された場合には、大学対策本部内に設置する）
- 2.4 遭難対策本部は以下の隊および係を必要に応じて組織する。

設置場所	係	役割
遭難対策本部 （東京本部）	本部長	遭難対策活動全般の指揮、マスコミ対応 ^{*1}
	連絡係	理岳会会員、山の会会員 ^{*1} 、保護者への連絡 ^{*1}
	渉外係	県警、病院等との連絡 ^{*1}
	記録・会計係	遭難対策活動の記録、会計事務
	救助隊支援係	装備、食料の手配等
現地本部	現地責任者	救助隊の指揮、現地での連絡・渉外 ^{*1}

	記録係	遭難対策活動の記録、現地責任者の補佐
	救助隊	パーティーの保護、救助活動の補助

- 初期の遭難対策本部構成は、本部長、記録・会計係、連絡係、渉外係の4名とする。
 - ✓ 連絡係と渉外係は兼務可
 - ✓ 記録・会計係と救助支援係は兼務可
- その後状況が正確に把握された段階で必要に応じて現地本部を組織する。
- 2.5 情報収集活動と電話の応対(担当は連絡および渉外係)
 - 現地の天候(現在と向こう1週間程度)、交通網(道路、鉄道、バス)、救助隊の宿泊設備(民宿、旅館、テント、車中)などの確認。
 - 対メディア:マスコミには余計なことを言わない。すべて遭難対策本部長^{*1}が応接すること。
- 2.6 搜索活動の形態
 - 以下の中、どのような搜索形態をとるかは、遭難状況、当該パーティーの構成内容、遭難山域、季節、山の難易度によって異なるが、最終判断は遭難対策本部で決定する。
 - ☐ とりあえず理岳会のみで搜索する。
 - ☐ 状況をひとまず警察に報告し、その後理岳会のみで搜索救助活動を行い、状況により正式に警察に遭難届けと搜索願を提出する。
 - ☐ まず遭難届けと搜索願を警察に提出し、その後搜索救助活動に入る。この場合、すべての活動は地元警察の指示に従って行われる。
 - 警察に届け出る場合は、遭難山域、遭難推定日時、当該パーティーの構成内容、メンバーの技量、登山歴、通信手段(メンバーの携帯電話、無線機コールサイン)、携行品(色・形)、服装、登山口に残置した使用車両の車種、外装色、登録車両番号などできる限り詳しい情報を提供する。
- 2.7 救助隊派遣に必要な器材準備と活動資金の手当
 - ロープワーク用器材一式、カメラ、地形図、登山地図、登山計画書、会員名簿、会員緊急連絡網、記録用ノート、道路地図、GPS、無線機、携帯電話と十分な予備電池あるいは充電器、幕営装備一式、食料・飲料、調理器具一式、応急手当用品、医薬品など
 - 車使用の場合は提供者を探す。
 - 会員から借り上げ、怪我人搬送に使用した装備(シート、シュラフカバー、手袋、ストック、テープや細引きなど)は、後日補償の対象とする。
 - 遭難対策費から当座の必要経費を仮受ける。預金の引き出しは遭難対策本部長の決済を受けること。すべての出費には領収書をもらい、領収書がもらえない場合はメモ(日時、金額、品目、購入先、購入者氏名)で残すこと。出納の管理と記録は記録・会計係が行う。
 - 現地宿泊先(現地本部)の予約
- 2.8 家族への連絡(遭難対策本部長が担当、連絡係が補佐)^{*1}
 - 現状を丁寧に説明し、必要ならば地元警察に搜索願を提出する旨の了解を取り付ける。
 - 本人の怪我の状態、生死などは、状況がはっきり判明し、確認がとれるまで家族に言わない。
 - 本人が加入している保険(山岳遭難保険等)の内容を説明し、地元山岳会の協力を得る場合、救出用ヘリコプターを要請した場合等は、相応の搜索救助費用が掛かることを説明し、了解を得る。
 - 遭難対策本部の連絡電話番号、担当者氏名を知らせておく。
 - 新しい情報が入った場合には遅滞なく家族に連絡し、後は定期的に遭難対策本部から進捗状況を連絡する。
 - 家族が現地に行くことを希望する場合は、家族の判断に任せる。ただし、救助隊と同行して遭難現場へ行くことは、二重遭難の原因となり、家族感情が搜索救助活動を妨げることがある。
- 2.9 現地本部の開設
 - 携帯電話の通話圏にある宿、公共施設等を確保する。
 - 現地本部の責任者は遭難対策本部長が指名する。
 - 責任者を補佐する目的で、記録係を配属する。
 - 山行パーティー、地元山岳会、警察、消防、山小屋などと密接な連絡を取り、常時情報の収集に努め、収集した情報を遅滞なく遭難対策本部へ報告する。
 - 事故者の家族が現地本部を訪問した際には、状況を説明し丁寧に応対する。ただし、怪我の程度、生死などは現場の状況が把握でき、確認できるまでは言わない。

- マスコミからの問い合わせ、取材に関しては、すべて遭難対策本部長^{*1}が行い、現地での発表は遭難対策本部発表の範囲にとどめる。
- 会員による救助隊が編成され出発した後は、救助隊と山行パーティーとの連絡を綿密におこなう（地元警察情報の伝達、気象予報の伝達、搜索範囲の確認、事故者の現状等）。

2.10 救助隊の編成

- 救助隊のメンバー選定は遭難対策本部長が行い、選定されたメンバーに協力を要請する。搜索活動が長期にわたる場合は、救助隊を数パーティー編成しておくことが望ましい（勤務先との調整等）。
- 搜索救助活動の山城、難易度、季節、天候、遭難者の数などにより、派遣される救助隊員に必要とされる技量、体力、経験を考慮にいれて編成すること。
- 救助隊の構成は、隊長と補佐3名の合計4名として、伝令を出す場合は必ず複数で行動する。搜索救助隊員の単独行動は厳に慎む。
- 搜索範囲は、救助隊にとって無理のない地形、条件の範囲にとどめ、活動に不安、危険がある場合には、地元山岳会、警察等の指示に従う。
- 無線機と携帯電話（稜線では使える場所もある）それに十分な予備電池を必ず携行し緊密な連絡を絶やさないようにする。
- 地元警察署には、救助隊の登山計画書（氏名、年齢、住所、血液型、搜索範囲、装備明細、携行無線機の使用周波数と携帯電話番号、下山予定日など記載）を提出し事前の了解を得ると同時に協力を要請する。
- 搜索救助隊の連絡が伝令により行われる場合には、必ず文書に認め携帯する。
- 行動中は救助隊の安全を第一とし、二重遭難をおこしてはならない。
- 緊急用無線としてアマチュア無線機が使用できるよう免許取得が望ましい。
- 遺体の搬出・搬送は警察の管轄となるので、むやみに動かさない。救助隊が行うのは、遺体のそれ以上の損傷防止と現場での確保にとどめる。

2.11 活動記録

遭難対策本部、現地本部はすべての活動を詳細に記録しなければならない。

2.12 遭難対策活動の終了

パーティーの保護、渉外活動が終了した場合に遭難対策本部を解散する。

3 事後処理

- 3.1 事故を総括するため、遭難評価会（以下、評価会）を設置する。
- 3.2 評価会のメンバーは、遭難対策本部メンバー、現地本部メンバー、パーティーのリーダー、その他遭難対策本部長が招集する者とする。
- 3.3 評価会は以下の内容を含む遭難報告書を作成する。
 - 山行計画概要
 - 山行行動記録
 - 事故発生時の状況
 - 事故発生後の現場での行動記録
 - 救援・救助活動の記録
 - 事故発生原因
 - 再発防止策
- 3.4 搜索救助活動に費やした経費の出納帳を作成し会計報告書を作成する。理岳会遭難対策費用からの必要経費、当事者あるいは家族・親族の負担すべき経費、保険請求で賄える経費等を分類し、速やかに精算処理を行う。
- 3.5 お世話になった、大学学生部、地元警察、地元山岳会、山中で世話になった他のパーティー、搜索救助活動に協力した会員、搜索救助費用を拠出してくれた人々などにお礼の挨拶をする。

以上